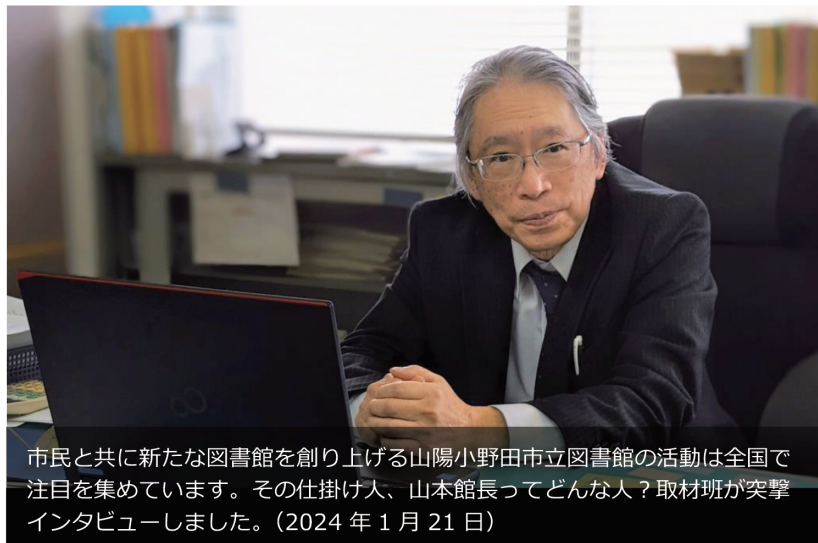


図書館特集 インタビュー

やまもと やすひこ
山陽小野田市立図書館 館長 山本 安彦 さん



市民と共に新たな図書館を創り上げる山陽小野田市立図書館の活動は全国で注目を集めています。その仕掛け人、山本館長ってどんな人？取材班が突撃インタビューしました。(2024年1月21日)

—図書館の職員になりたいと思ったきっかけは？

契機は大学時代ですね。同級生や先輩が童話文学の勉強会を行っていて、私も参加していました。会では詩人の谷川俊太郎さんや吉増剛造さんなどを招いた詩のライブなども開催していて、そこで児童文学という分野に興味が湧き、社会に出てからも子どもの本に関わりたいと思ったんです。

大学卒業後は、県内の印刷会社に就職しました。本づくりの現場はとても勉強になりましたが、ビジネスという形で本に関わることには少し違和感を感じて、1年後に山口県立図書館へと転職しました。最初10年ほどは児童分野の仕事を担当して、県内各地で講演会のお世話などを行っていました。

—児童文学への興味がきっかけなんですね。県立図書館での経験が、その後の活動のベースになったのですか？

図書館でのカウンター越しだとなかなか子ども達との関わりが持てないなと感じていたので、民間での活動として、1980年に山口市内の県営住宅の集会所に「子ども文庫」を設置したんです。

毎週土曜日の開催だったのですが、周りの団地からも子ども達が集まって、毎回100人前後の参加がありました。その頃始まった週末2日を利用した活動でしたが、土曜の休みはたちまち無くなりましたね（笑）。

その後、各地の子ども文庫同士が協力できないかと考えて、1987年に山口県子ども文庫連絡会を結成して、県全域での活動を始めました。

例えば、長門市の俵山で行ったお泊り会では、昼に子どもが川遊びをしている時間に、保護者は作家さんとお話を開いて、夜は親子一緒に講演会に参加したり。皆でイベントを考えては、楽しくチャレンジしていましたね。

一楽しんでいる子ども達の様子が目に浮かびます。館長は様々な作家さん達と繋がりを持たれていますが、どのように育まれたのですか？

最初の頃は、広島から防府市に引っ越してこられた那須正幹さんを通じてたくさんの作家さんを紹介していただきました。その後、子ども文庫連絡会の活動を通じて、徐々にネットワークが広がった形ですね。

そんな中、2000年が「子ども読書年」になったことを契機として、子どもの本に関わっている方もっと繋がりたいと思い、「こどもと本ジョイントネット21・山口」の立ち上げへと繋がりました。

その後、国の受託事業などを通じて、本当に多彩な作家さん達にご協力いただきながら子ども達に読書を楽しんでもらえるイベントの企画運営をしていました。県立図書館では2013年まで34年間勤務しました。



―その後、山陽小野田市立図書館の館長になられたんですね。館長は公募だったとお聞きしていますが、応募された理由は？

県立図書館の仕事は市町立図書館の支援が主だったので、市町立図書館で働きたいなあという思いがずっとあったんです。

県立図書館から市町立図書館に本を届ける巡回協力車という仕事があって、厚狭と小野田の図書館のことも当時からよく知っていたので、ちょうど定年のタイミングと重なっていた館長公募に応募しました。

また、中央図書館を設計した設計事務所のメンバーとは、北欧の図書館と一緒に視察したことがあって、図書館竣工の内覧会にも参加しました。山陽小野田市の図書館には、不思議な縁を感じていますね。

―館長となって今年で 11 年目になりますが、振り返っての感想は？

就任した当時は、図書購入費が少なくて本が思うように買えず、魅力的な本がない状態。また、新刊書が古い図書に埋没しているような有様でした。

そこで、まずは文庫本を含めて表紙を見せる展示を徹底しました。すると本が動き始めたんです。毎朝の書架点検は、今でも最優先事項としています。

あとは、山陽小野田オリジナルのイベントをやってみようと色々チャレンジしました。

最初に行ったイベントは、「ぬいぐるみの図書館お泊り会」。20体くらいと思っていたら、100体のぬいぐるみ参加があったのは嬉しい誤算でしたね。



また、山口東京理科大学と繋がりたいという思いではじめた「サイエンスカフェ」も50回を超えており、とても山陽小野田市らしい取り組みだと思います。

他にも、夏休みには図書館でおばけ屋敷を企画しましたが、かつて子ども文庫で経験してきたことが、山陽小野田での新たな図書館づくりでも役に立っているなあと感じています。

―山陽小野田市立図書館というと、読み聞かせなど絵本に関する取り組みが充実している印象があります。館長が考える絵本の魅力とは？

小さな子どもも読むことができるし、大人であっても楽しめるなど、読み手に年齢に制限のないところですね。また、文章と絵の組み合わせによって深いメッセージを伝えることができることも、大きな魅力だと思います。

ちなみに 2023 年の児童書の日当たりの貸出冊数は、過去最高でした。多くの子ども達が絵本を楽しんでくれていることは嬉しいことです。図書館としては、傷んだ本は小まめに買い替えるように心がけています。昔に出版された絵本であっても、子どもにとっては初めて出会う新しい絵本ですから。



山陽小野田市立図書館では「絵本だ〜いすき! ブックリスト」を作成しています
※乳幼児（0・1・2歳）向け、3・4・5歳向け、小学校低学年向け、小学校中学年向けの4種類

―最後に、思い描く理想の図書館づくりに向けた思いを聞かせてください。

目指す図書館の姿は、地域に根を下ろし、色々な人々と繋がって支えられている図書館です。

市民が図書など図書館から提供されるものを享受するだけでなく、市民と一緒に創り上げていく図書館にしていきたいと考えています。

2024 年は山陽小野田市に図書館が誕生して 100 周年という節目の年になります。色々な行事やイベントを市民の方々と一緒に企画したいと思いますので、ぜひ多くの皆さんに図書館を楽しんで欲しいですね。

（文・写真：山田幸司）

山本安彦さんの

山陽小野田の
ここが好き！

山陽地区の歴史や明治以降の工業、豊かな自然が混ざり合ってまちの魅力となっているところ